

2024年度

事業報告書

2024年1月1日から

2024年12月31日まで

公益財団法人 世界こども財団

I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

1 方針

震災から13年を経て変わりつつある被災地のニーズを汲み取りながら、相馬市・南相馬市を中心に福島県浜通りの子どもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリングやスポーツ交流を他の支援者とともに協働して実施する。

また、東日本大震災以外にも、自然災害で被災した地域への緊急支援も可能な限り実施していく。

2 支援事業の概要

(1) スクールカウンセリング事業

- ・復興に向け被災地は大きく変貌しようとしている。その環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童、生徒、教員および保護者等が見られることから、彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請を受けた。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから、他の支援者（相馬市・南相馬市教育委員会、NPO 法人相馬フオロアーチーム、NPO 法人星槎教育研究所および学校法人国際学園）とともに協働し、2011年度より福島県相馬市・南相馬市において継続的に支援を実施、現在は南相馬市の小中学校にて活動を継続している。
- ・2024年度においても南相馬市から継続の要請を受け、支援を継続した。
- ・世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について学校および教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネートおよび支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）および一部経費負担等の支援活動を行った。

スクールカウンセリング事業の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
カウンセリング	福島県南相馬市	市内全ての中学校および特定の小学校の児童・生徒・教員・保護者	6名体制、年間で24回（月2日×12ヶ月）実施。一部の学校は年間で48回実施（月4日×12ヶ月）
備考	【支援者（機関）】 南相馬市教育委員会、NPO 法人 星槎教育研究所、学校法人 国際学園 【実績】 ・2011年度より継続実施 ・2015年3月までの相馬市内でのカウンセリング累計数は、 生徒：750件、教員：355件、保護者62件 ・2023年度の南相馬市でのカウンセリング件数は、 生徒：742件、教員：81件、保護者62件 ・2024年3月までの南相馬市内でのカウンセリング累計数は、 生徒：5,913件、教員：662件、保護者738件 （2025年3月までの実績は集計中）		

(2) スポーツ交流

- ・福島県相馬市において子どもたちを元気にするため、子どもサッカー大会、サッカースクールおよびサッカー指導講習会の開催についての要請を受け、世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者とともに協働して実施している。

- ・2024年度は1月14日・15日の二日間にわたり開催し、初日は指導者講習にはじまり、午後は会場を移して日本人初のプロサッカー選手である奥寺康彦氏ほかによる講演会を実施した。二日目はサッカー大会「星槎奥寺カップ」を開催、小学校3、4年生の9チーム、約100名が参加した。
- ・世界こども財団は、事前準備として本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）、イベントの記録報告書作成等を行った。

スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程
・指導者講習会・講演会および子どもサッカー大会	福島県相馬市	小学校の児童および サッカー指導者 (小学生は約100名参加)	2024年 1月14日、15日
備 考	【協働者（機関）】 相馬市サッカー協会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学校法人 国際学園 【実績】 2011年度より継続実施		

(3) その他の各地での災害等への支援

・能登半島地震復興支援

2024年元日に能登半島地震が発生したことを受け、星槎グループの各法人と協働での緊急募金活動を展開し、集まった募金58万9,887円を、富山市における復興のための義援金として贈呈することとした。2024年3月27日、富山市長を訪問し、募金活動に協力した星槎国際高等学校の代表生徒とともに、藤井裕久市長と面会、贈呈式を行った。

能登半島地震復興支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
・緊急募金活動 および支援金贈呈	富山市	富山市民	2024年 3月27日 (贈呈式実施)
備 考	【協働者（機関）】 学校法人国際学園、学校法人星槎、星槎学園 社会福祉法人星槎、学校法人星槎こども園 KIDS planet		

Ⅱ 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

1 方 針

発展途上国の子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境を改善するべく、現地の各関係機関と連携し活動を実施する。また、スポーツを通じた支援も行い現地の子どもたちや青少年の育成に加え、支援国のスポーツ文化の振興・発展に寄与する。エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国を中心に支援を実施してきたが、2023年度より新規事業としてウガンダ共和国における子どもたちへの教育支援および現地小学校の環境整備支援を開始し、2024年度も引き続き実施する。エリトリア国、ブータン王国への支援については、現地の状況を考慮しながら既存および中断していたプログラムの見直し、整理を行っていく（ミャンマー連邦共和国での支援活動は2022年度で終了）。

2 支援事業の概要

- ・2024年度は、前年度より新規事業として開始し、クラウドファンディングで寄付を呼び掛けたウガンダ共和国での小学校の通学路における橋の建設と、小学校の教室増設のための支援を実施した。併せて、当財団のウガンダ共和国での活動等を契機に大磯町が開催した「大磯こどもサミット」への開催協力も行った。
- ・エリトリア国およびブータン王国においてペンディングとなっていたプログラムには2024年度中に具体的な進展は見られなかった。エリトリア国については現地での事業の実現可能性が低いことから、本項目における事業については一旦中止とし、他の項目における留学生受け入れやエリトリア国出身者によるプログラムなどを継続していくこととした。
- ・ブータン王国への支援については、引き続き現地の状況を考慮しながら、次年度以降の実施を検討していく。

ウガンダ共和国オモロ県の現地小学校支援の概要

【前年度までの経緯および計画】

支援対象地区	支援対象者	日程等
ウガンダ共和国オモロ県	KOMOREBI 小学校児童	2023年より継続
支援内容	2023年2月、ウガンダ共和国オモロ県にて日本のNPO法人(NPO法人五条クラブ)が創設した「KOMOREBI 小学校」が開校、小学校1、2年生の子どもたち86名が学校生活を開始。2023年7月、NPO法人と公益財団法人世界こども財団の協働へ向け協議を開始。9月に支援の現状と現地で必要とされる事案等を確認、検討の結果、本活動が世界こども財団の公益目的事業と合致、また実現の可能性が高いことを確認し、新規支援事業として取り組むことを決定。2023年11月駐日ウガンダ共和国大使と面会、協議の結果、本事業がウガンダ共和国政府公認(公式)となる。 2023年12月20日-28日に現地訪問し視察、また現地自治体と五条クラブ、世界こども財団の3者で連携協定を締結。あわせて2023年11月から12月にかけては、後述の橋の建設の資金を募るためクラウドファンディングを実施し、広く支援を呼び掛けた。 【2024年度からの中期計画(5ヵ年)】 当財団の3つのビジョンにある「ゆっくり、されど着実に。先々の未来まで続く活動を」に基づき、一過性の支援ではなく継続的な支援と関わりを目指す。 以下5ヵ年の支援内容： ・当該小学校に通う子どもたちのための「橋」の建設整備支援 ・当該小学校の教室増設支援 ・当該小学校のインターネットなどの学習環境整備 ・当該小学校の電気・上下水道・衛生設備などの環境整備	
備考	【協働者】駐日ウガンダ共和国大使館およびウガンダ共和国政府、ウガンダ共和国オモロ県、NPO法人五条クラブ	

【2024年度に実施した支援内容】

(1) 当該小学校に通う子どもたちのための「橋」の建設整備支援	
支援内容	当該小学校に通うための通学路の整備が進んでいるが、特に地域で雨季になると道が水没してしまい通学が困難となる子どもたちのため、その箇所での橋の建設および整備を支援した。本支援においては2023年度後半に発表、クラウドファンディングを立ち上げ広く支援を募った。2024年1月より建設準備をはじめ、現地との調整を経て同4月に着工、7月に橋が完成し、小学校に通う子どもたちが利用できるようになった。

(2) 当該小学校の教室増設支援	
支援内容	ウガンダ共和国の小学校は7年制となっているが、現在「KOMOREBI 小学校」は全学年の教室は揃っておらず、子どもたちの進級に間に合うように増設の必要性がある。小学校の創設者である NPO 法人五条クラブと協働し、教室増設の支援を実施、2024年度中に4年生の教室が完成した。本支援は今後も継続予定である。

(3) 「大磯こどもサミット」開催協力	
支援内容	当財団が拠点を置く大磯町が2024年12月21日（土）に、「大磯こどもサミット」を開催、大磯プリンスホテルを会場に約500名が来場した。同イベントは、大磯町が当財団の活動等を契機として2025年の大阪万博へ向けた内閣官房事業「万博国際交流プログラム」にウガンダ共和国を相手国として登録、選定されたもので、同町より要請を受けたため、本イベントの開催に協力、当日は当財団の取り組みについてプレゼンテーションを行った。

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業

1 方針

スポーツ交流を通じ、アフリカ・アジア各国との国際相互理解促進を図るため、各スポーツにおいて才能のある高校生・大学生の留学受け入れを他の支援者とともに協働して実施する。また、JICA 横浜と連携した研修生受け入れ事業、および国際理解促進のための教育機関における授業プログラム等も実施する。

2 支援事業の概要

(1) マリ共和国留学生（高校生）の受け入れ

・マリ共和国より、スポーツ競技に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新の

スポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・マリ両国の友好に貢献できる人材を養成する。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒にも国際的視野が広がることが期待できる。

- ・ 2023年度に、マリ共和国からの高校留学生（バスケットボール競技男子1名）の受け入れを開始した。世界こども財団は、同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、そして、受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当している。
- ・ 2024年度は、同留学生が高校在籍中であるため、継続して支援を実施した。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	マリ共和国	(継続) 高校生1名	2023年より継続
備考	【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際高校湘南 【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、駐日マリ共和国大使館		

(2) エリトリア国留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ エリトリア国より、スポーツ競技に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒にも国際的視野が広がることが期待できる。
- ・ 2017年度に事業を開始し、これまで同国より高校・大学留学生計12名の受け入れを実施した。世界こども財団は同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、また受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当。
- ・ 現在、星槎道都大学陸上部にエリトリア大学生2名が在籍。在籍生徒については2024年度も継続して支援を行った。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	エリトリア国	(継続) 大学生2名	2017年より継続
備考	【受入れ校】 学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学 【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会および陸上競技連盟、駐日エリトリア国大使館、学校法人 北海道星槎学園、学校法人 国際学園		

(3) 国際理解促進のための教育機関での出張授業プログラム

- ・ 2022年度より、世界こども財団職員を高校に定期的に派遣し、国際理解教育を支援する取り組みを「出張授業」として開始した。
- ・ 2024年度は、エリトリアから当財団のプログラムで留学し、大学卒業後当財団にて勤務している職員が星槎国際高等学校（八王子学習センター、横浜鴨居学習センター、立川学習センター、小田原学習センター）を定期巡回したほか、特別企画を担当するなど、エリトリア、およびアフリカと日本の文化、またスポーツや食文化の要素も取り入れて授業を実施した。

- ・また、当財団の活動全般および国際支援活動について考えるきっかけとして、職員が北海道、広島、香川の星槎国際高等学校の学習センターに出張し、高校生向けに講義だけでなくグループワークを通して「支援とは何か」を考える授業を実施した。
- ・前述の活動が定着してきたことにより、エリトリア国出身の職員は駐日エリトリア国大使館から講師依頼を受けるに至り、同大使館のプログラムの一環として、5月28日には港区立白金小学校において国際理解教育の出張授業を実施、約100名の児童にエリトリア国およびアフリカの文化を伝えた。

出張授業プログラムの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
出張授業	国内	私立高等学校および 公立小学校 児童・生徒・学校関係者	2022年度より継続
備考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、学校法人 星槎		

（４）JICA 横浜との協働による日系社会研修受け入れの実施

- ・JICA 横浜が推進している日系社会研修（主に南米の日本にルーツを持つ青年の日本での研修事業）に当財団のプログラム案が採択されたため、協働し研修生の短期受け入れを実施する。
- ・研修のテーマは「共感理解教育と日本文化」とし、星槎グループのネットワークを活用して各教育機関での研修を実施するほか、日本文化を体感できるプログラムを盛り込み、初回は2023年1月に1ヶ月間の日程でブラジル連邦共和国より1名を受け入れた。
- ・同プログラムで再度、採択を受けたため、2024年1月に2回目となるプログラムを実施。ブラジル連邦共和国より研修生1名を受け入れた。

日系社会研修受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程
日系社会研修	中南米における日系社会	研修参加者	2024年1月15日 ～2月15日
備考	【協働者（機関）】 独立行政法人国際協力機構（JICA）横浜、一般社団法人 星槎グループ、学校法人 国際学園、学校法人 星槎		

（５）SEISA Africa Asia Bridge (SAAB) への開催支援および後援

- ・学校法人国際学園、学校法人星槎、およびSEISA Africa Asia Bridge 実行委員会共催、世界こども財団後援の上記イベントが今年度も継続して開催された。目的は、アフリカ、アジアの国々、太平洋の島国を知り、お互いを認め合い、そして、つながる“架け橋”となることである。単にイベントではなく、日常の教育活動に世界中の人々が笑顔で暮らせる共生社会の実現に向け、一人ひとりができることから考え、お互いの意見を発表し、さらに発展することを行っている。
- ・2024年、第10回を迎えた SAAB は、引き続きオンラインでの配信とあわせたハイブリッド形

式で開催した。来場者は過去最大となり、生徒や18ヵ国の大使館関係者など、8,633名となった。

- ・世界こども財団はイベントの後援を行ったほか、参加団体としてのプログラムの実施やチャリティブース運営、また実行委員会と協働し、大使館関係者とのコーディネート業務およびバックオフィスのサポートを担当した。

SAAB 開催支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程
SAAB 2023 の後援	国内およびアフリカ、 アジアを中心とした 国々	来場者、視聴者、および 参加生徒等	2024年11月11日
備 考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、一般社団法人 星槎グループ、JICA 横浜、UNDP（国連開発計画）、アフリカ各国の駐日大使館 他 【後援（機関）】 外務省、文部科学省、神奈川県、横浜市、小田原市、芦別市、箱根町、大磯町、神奈川県教育委員会、横浜市国際局、横浜市教育委員会、小田原市教育委員会、芦別市教育委員会、JICA 横浜、ヨコハマ SDGs デザインセンター 【実績】 2015年より毎年開催		

（6）ブータン王国高校生の日本での短期陸上競技トレーニング・国際交流プログラム支援

- ・2024年11月5日から11月11日にかけて、ブータン王国の王立アカデミー（Druk Gyalpo's Institute）より高校生4名と体育教員1名が来日し、陸上トレーニングを中心とした国際交流プログラムを実施した。
- ・本プログラムは学校法人国際学園および一般社団法人アスリートソサエティとの協働により実施した。
- ・来日した高校生たちは、星槎箱根キャンパスに滞在し、陸上トレーニングは平塚レモンガススタジアムや大磯湘南キャンパスにて実施された。さらに、星槎大学陸上部や星槎国際横浜鴨居陸上部も参加し、技術向上だけでなく、日本の高校生や大学生との交流の機会ともなった。
- ・箱根町町長への表敬訪問や箱根町立仙石原小学校訪問を実施し、国際交流イベント「SEISA Africa Asia Bridge 2024」にも参加。ブータンの民族衣装をまといながら、アフリカ各国の伝統や文化、価値観を体験する貴重な機会となった。

ブータン王立アカデミープログラム支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備 考
日本での短期 トレーニング ・国際交流	ブータン王国	王立アカデミー 高校生4名 体育教員1名	2024年11月5日 ～11月11日
備 考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、一般社団法人 アスリートソサエティ		

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 方針

開発途上国のこどもたち、その中でも特に弱い立場にいる孤児の自立を支援するため、他の支援者とともに支援活動を実施する。

2 支援事業の概要

エリトリア国出身職員の自立支援プログラム

- ・ 当財団のスポーツ奨学生（陸上競技）プログラムで日本に留学し、大学を卒業したエリトリア国出身者1名を職員として雇用し、当該職員が引き続き日本で活動、自立して社会人としての生活を送れるよう支援するとともに、当該職員を主体としたプログラムを実施した。
- ・ 本プログラムは単に外国籍の職員を雇用し直接支援することではなく、日本で学んだ留学生在が社会に出て、広く母国およびアフリカの文化を紹介すること、さらにその留学生在が次の世代のこどもたちや青少年を育てていくことにより、支援と関わりあいの循環を生むことにある。
- ・ 2024年度は「Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業」に記載した出張授業プログラムの実施に加え、各地イベントにおけるエリトリア国の食文化紹介（カレー提供）、留学生を含む高校生および大学生への陸上競技指導、留学生への日本語指導を当該職員の主担業務として実施した。
- ・ 2024年5月に駐日エリトリア大使館から直接のオファーにより、公立小学校での授業を実施した。

エリトリア国出身職員に関連する支援事業

支援対象地区	支援対象者	日程等
エリトリア国および日本国内	エリトリア国出身職員および留学生を含むプログラム参加者	通年
支援内容	当該職員による下記プログラムのコーディネート ・ 高等学校における出張授業 ・ 高等学校、大学における陸上競技指導 ・ 高等学校における留学生への日本語指導 ・ 「大磯市」、各学校の文化祭における食文化紹介	
備考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園	